



# 2026 技術系公務員講座 シラバス 国家総合職合格コース

..... ご注意 .....

※このシラバスは、講座開講準備段階の2026年4月に各講師が作成したものです。  
※今後コマ数・日程・講義内容は変更になることがありますのでご了承ください。

BKCエクステンションセンター

# 2026技術系公務員講座

## 目次

ページ	項目	講師
1	使用テキスト一覧	—
2	数的処理	林
3	数的処理演習	林
4	文章理解	根岸
5	人文科学	根岸
6	社会科学	根岸
7	自然科学	根岸
8	論文対策	根岸
9	時事教養	根岸
10	地方上級・国家総合職W合格ゼミ	根岸
11	工学の基礎	丸山
12	土木	丸山
13	建築	近藤
14	機械	丸山
15	電気・電子	丸山
16	化学（工学・化生薬）	近藤
17	数学・物理対象（機械+電気電子）	丸山
18	数的処理国家総合職演習	林
19	一般知識国家総合職演習	根岸
20	工学の基礎応用	丸山
21	土木応用	丸山・近藤
22	建築応用	近藤
23	機械応用	丸山
24	電気・電子応用	丸山
25	化学応用（工学・化生薬）	近藤
26	工学区分1upゼミ	近藤
27	化生薬区分1upゼミ	近藤
28	政策立案講義	近藤

## 2026年度技術系公務員講座

### 使用テキスト一覧

★講座で使用するテキストは授業開始の1週間前頃から生協（BKC/リンクショップ）にて販売します。  
各自買忘れのないようにご準備ください。

科目名	テキスト名	出版社	税込価格	備考
数的処理	大卒・上級レベル 数的処理	資格★合格クリアール	¥2,116	
	過去問フォーカス 数的処理	資格★合格クリアール	¥1,540	
数的処理演習	レジュメ対応	-	-	
文章理解	UPワーク 文章理解（オリジナルテキスト）	ワークアカデミー	¥2,200	講師書下ろしオリジナルテキスト
人文科学	UPワーク 人文科学（オリジナルテキスト）	ワークアカデミー	¥2,200	講師書下ろしオリジナルテキスト
社会科学	UPワーク 社会科学（オリジナルテキスト）改訂版	ワークアカデミー	¥2,200	講師書下ろしオリジナルテキスト
自然科学	UPワーク 自然科学（オリジナルテキスト）	ワークアカデミー	¥2,200	講師書下ろしオリジナルテキスト
論文対策	UPワーク 論文・面接（オリジナルテキスト）	ワークアカデミー	¥1,518	※「W合格ゼミ」と同じテキスト
	上・中級公務員 論文試験 頻出テーマのまとめ方 2027年度	実務教育出版	¥1,980	
時事教養	令和9年度試験完全対応 公務員試験 速攻の時事	実務教育出版	¥1,320	未発売・2027/2予定 *価格未定
	朝日キーワード2028	朝日新聞出版	¥1,870	未発売・2027/1予定 *価格未定
地方上級・国家総合職W合格ゼミ	UPワーク 論文・面接（オリジナルテキスト）	ワークアカデミー	¥1,518	※論文対策と同じテキスト
工学の基礎	技術系新スーパー過去問ゼミ 工学に関する基礎	実務教育出版	¥3,300	
土木	公務員講座テキスト『土木』	資格★合格クリアール	¥2,500	※「土木応用」と同じテキスト
	技術系新スーパー過去問ゼミ 土木	実務教育出版	¥3,300	※「土木応用」と同じテキスト
建築	建築職公務員試験 専門問題と解答 構造・材料ほか編(第4版)	大学教育出版	¥3,300	
	建築職公務員試験 専門問題と解答 計画・環境ほか編(第6版)	大学教育出版	¥2,970	
	二級建築士 はじめの一步：学科対策テキスト	学芸出版社	¥2,420	
機械	レジュメ対応	-	-	※「物理系」も同じ
電気・電子 数学・物理対象	技術系新スーパー過去問ゼミ 電気・電子・デジタル	実務教育出版	¥3,300	
化学（工学・化生薬）	「新スーパー過去問ゼミ 化学」（第1版）	実務教育出版	¥3,300	
数的処理国家総合職演習	レジュメ対応	-	-	
一般知識国家総合職演習	プリント対応			
工学の基礎応用	レジュメ対応	-	-	※「工学の基礎」テキストも使用
土木応用	公務員講座テキスト『土木』	資格★合格クリアール	¥2,500	※「土木」と同じテキスト
	技術系新スーパー過去問ゼミ 土木	実務教育出版	¥3,300	※「土木」と同じテキスト
建築応用	レジュメ対応	-	-	
機械応用	レジュメ対応	-	-	
電気・電子応用	レジュメ対応	-	-	※「電気・電子」テキストも使用
化学応用（工学・化生薬）	レジュメ対応	-	-	
工学区分1upゼミ	レジュメ対応	-	-	
化生薬区分1upゼミ	レジュメ対応	-	-	
政策立案講義	レジュメ対応	-	-	

※テキスト価格は予定です。実際の店頭価格と多少異なる場合もあります。

## Syllabus

科目	数的処理
担当講師	林 信廣
回数(コマ数)	34コマ
必要な知識	小学校の算数および中学校までの数学に関する知識
受講生の到達目標	問題を解くために必要な知識および技術の修得を目指します。

### <講義内容>

技術職公務員試験では、数的処理でそれなりの高得点を目指したいところですが、数的処理は通常の数学とは異なるので、意外に点数が伸ばしきれない受験生も多く、決して楽観視はできません。そこで、基本的な知識はもちろん、短時間で解答するための技術や、他の受験生が戸惑うような問題の解法などについても、踏み込んで学習していきます。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	数的推理(1)～方程式と不等式・割合と濃度・速さに関する問題～
4・5・6	コマ	数的推理(2)～速さの応用問題・倍数と約数・魔方陣と不定方程式～
7・8・9	コマ	数的推理(3)～N進数と規則性の問題・最適化に関する問題・場合の数(1)～
10・11・12	コマ	数的推理(4)～場合の数(2)・確率(1)・確率(2)～
13・14・15	コマ	判断推理(1)～命題と論理・集合と数量関係・順序関係～
16・17・18	コマ	判断推理(2)～位置関係・対応関係・試合に関する問題～
19・20・21	コマ	判断推理(3)～証言から推理する問題・多様な推理の問題・操作や手順に関する問
22・23・24	コマ	図形把握(1)～図形の計量(1)・図形の計量(2)・正多面体の性質～
25・26・27	コマ	図形把握(2)～展開図に関する問題・切断に関する問題・投影図と位相図～
28・29・30	コマ	図形把握(3)～小立方体の問題・軌跡の問題・平面図形に関する問題～
31・32	コマ	資料解釈(1)～実数と構成比・増加率と減少率～
33・34	コマ	資料解釈(2)～度数分布と代表値・資料の分布～

## Syllabus

科目	数的処理演習
担当講師	林 信廣
回数(コマ数)	8コマ
必要な知識	数的処理問題を解くために必要な基礎知識
受講生の到達目標	試験本番で人より1点でも多く得点できることを目指します。

### <講義内容>

講義で学んだ内容を確認しながら実践的な問題を解くことで、試験本番の出題形式にも慣れていきましょう。また、演習を通じて「1点でも多く得点する技術」も修得したいところです。

### <講義予定>

1・2	コマ	数的処理 実践演習講座 第1回
3・4	コマ	数的処理 実践演習講座 第2回
5・6	コマ	数的処理 実践演習講座 第3回
7・8	コマ	数的処理 実践演習講座 第4回

## Syllabus

科目	文章理解
担当講師	根岸 博之
回数(コマ数)	12コマ
必要な知識	きわめて基礎的な語学力
受講生の到達目標	試験の出題意図をふまえた、客観的な文章理解力を獲得する。

### <講義内容>

これまで適切な対策を講じたことのない文章理解のテクニカルな解き方を実践し、得点源にしていく。「自己流」や「カン」に頼りがちな科目だが、その出題傾向と特性を理解し、確実に得点につながる手段など、少しでも得点を伸ばすための講義を進める。オリジナルテキストを使用し、試験種ごとの傾向をふまえて数多くの良問を提供する予定である。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	現代文 基本的な考え方と内容把握問題の実践
4・5・6	コマ	現代文 内容把握問題応用・空欄補充問題・文章整序問題
7・8・9	コマ	英文 基礎的な英文問題の考え方
10・11・12	コマ	英文 応用問題・照合問題、難題に対する実践訓練

## Syllabus

科目	人文科学
担当講師	根岸 博之
回数(コマ数)	12コマ
必要な知識	特になし
受講生の到達目標	公務員試験の教養試験対策とともに、他の専門科目、論文試験、面接試験につながる幅広い教養力の修得をめざす。

### <講義内容>

社会科学・時事の基礎ともなりうる世界史を中心に講義を進め、法律、経済、政治学や行政学、国際関係論など社会科学と関係させることで興味を持てるようにしていく。また、時事につながるため地理を総括的に取り扱うことで、教養試験対策としての的を絞った講義とし、全体にわたって「飽きさせない」講義を展開する予定である。日本史や文学・芸術については、概要を説明する予定である。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	世界史 古代から中世、宗教史、イスラム史など
4・5・6	コマ	世界史 近代ヨーロッパ、中国史
7・8・9	コマ	世界史 近現代史
10・11・12	コマ	地理 自然地理（地形、気候、土壌）と人文地理（農業、工業）

## Syllabus

科目	社会科学
担当講師	根岸 博之
回数(コマ数)	20コマ
必要な知識	特になし
受講生の到達目標	公務員試験の教養試験対策とともに、他の専門科目、論文試験、面接試験につながる幅広い教養力の修得をめざす。

### <講義内容>

法律、経済、政治学や行政学、国際関係論などの基礎知識を説明していく。各科目の学習準備となりうる知識を幅広くインプットするとともに、時事問題についても講義内での説明を心がけ、公共政策の重要性なども指摘していく。時事問題への準備、論文対策への準備にもなり得るよう、工夫して講義を進める。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	人権の歴史 各国の制度 政治理論
4・5・6	コマ	行政学理論 国際関係論 安全保障論
7・8・9	コマ	日本国憲法・人権
10・11・12	コマ	日本国憲法・人権、統治
13・14・15	コマ	ミクロ経済学概説
16・17・18	コマ	マクロ経済学概説
19・20	コマ	財政学・経済事情

## Syllabus

<b>科目</b>	自然科学
<b>担当講師</b>	根岸 博之
<b>回数(コマ数)</b>	6コマ
<b>必要な知識</b>	特になし
<b>受講生の到達目標</b>	公務員試験の教養試験対策とともに、他の専門科目にもつながる幅広い教養力の修得をめざす。科学時事、ノーベル賞などふまえたタイムリーな話題を説明する。

### <講義内容>

自然科学分野全般をコンパクトに取り扱い、特に時事対策上で重視されている部分などを詳細に説明することで、教養試験対策として万全の態勢を準備する。特に教養試験で得点しやすい「生物」、「地学」は時間をかけて講義を進める。「物理」、「化学」は専門科目での講義では紹介されない部分、原子核物理や生活関連化学を中心にピンポイントで講義をする予定である。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	物理 力学・素粒子物理学等／化学 有機合成・高分子化合物等
4・5・6	コマ	生物 細胞・遺伝／地学 地球・宇宙等／科学時事・ノーベル賞

## Syllabus

<b>科目</b>	論文対策
<b>担当講師</b>	根岸 博之
<b>回数(コマ数)</b>	12コマ
<b>必要な知識</b>	一定の記述力、論理力、行政課題に関する基本知識
<b>受講生の到達目標</b>	論文試験での記述につながる時事知識の獲得と、論理力、記述力の定着

### <講義内容>

合格に向けて最大の難関とされている政策論文（教養論文）について、記述方法を説明するとともに、昨今の行政課題を簡潔にまとめることで、具体的な施策を考察することができるように配慮していく。公共政策学の基本的な視点の獲得も進めていきたい。また、職種、地域ごとの特性やこれまでの出題をふまえ、それぞれの試験対策を十分に進めることができるよう講義を行う。社会事情系の講義内容については単なる時事常識にとどまらず課題解決の指針も提示できるように配慮する。添削課題を提出する機会もあるので活用してほしい。

### <講義予定>

1・2	コマ	教養論文の書き方、政策の考え方／公共政策学、行政サービス論
3・4	コマ	公共政策学、行政サービス論
5・6	コマ	公共政策学の関連知識解説①用語解説
7・8	コマ	公共政策学の関連知識解説②用語解説／社会事情
9・10	コマ	公共政策学の関連知識解説③社会事情
11・12	コマ	政策課題論文の書き方／公共政策の考え方・総括

## Syllabus

<b>科目</b>	時事教養
<b>担当講師</b>	根岸 博之
<b>コマ数</b>	12コマ
<b>必要な知識</b>	公務員講座を受講し、かつ、教養「社会科学」を学習済みであること
<b>受講生の到達目標</b>	時事問題に対し、背景の事情も含め完璧な対策を進めていく。論文作成時などにも活用できる時事知識の獲得をめざす。

### <講義内容>

公務員試験の基礎能力試験対策で最重要と考えられている時事問題を詳細かつ丁寧に説明していく。出題予想も徹底して実施する予定なので積極的に参加してほしい。社会科学系の講義とあわせて受講を進めていくことが望ましく、事前に社会科学関係の教科を学習しておくことで万全を期して試験に臨めるようにしたい。なお、テキスト出版時期により、説明順序を一部変更する可能性がある。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	時事対策1 国内政治・国際政治
4・5・6	コマ	時事対策2 日本経済・経済政策・財政・世界経済
7・8・9	コマ	時事対策3 社会問題（環境、社会問題、文部科学）
10・11・12	コマ	時事対策4 社会問題（厚生、労働、司法警察）

## Syllabus

<b>科目</b>	地方上級・国家総合職W合格ゼミ【対面講義】
<b>担当講師</b>	根岸 博之
<b>コマ数</b>	16コマ
<b>必要な知識</b>	社会科学に関する基礎知識を有することが望ましい。
<b>受講生の到達目標</b>	総合職の政策課題論文、官庁訪問や人事院面接などで必要な公共政策の基礎知識を確認し、あわせてプレゼンテーション力・コミュニケーション力の向上を図る。

### <講義内容>

地方上級・国家総合職合格に向けて必要不可欠な公務員としての考え方や公共政策論、現在の各種社会課題の考え方について、講義およびディスカッションなどをとおして説明、理解を深めていく。インプットの講義を受講→対面講義の場で討論実施、という流れで実施するので、できる限り対面講義の場に参加し、ディスカッションの機会を持つことをおすすめしたい。

### <講義予定>

1・2	コマ	公務員の職務に関する知識
3・4	コマ	政策立案の手法
5・6	コマ	公務員を取り巻く環境、公務員の立場・存在意義
7・8	コマ	少子化・高齢化・情報社会と住民参加など
9・10	コマ	地方創生・災害対策・文化政策など
11・12	コマ	雇用、貧困対策、教育問題など
13・14	コマ	環境問題・ゴミ問題・生物多様性など
15・16	コマ	科学技術政策など

## Syllabus

科目	工学の基礎
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	36コマ
必要な知識	特になし（基本的な計算能力）
受講生の到達目標	国家一般職，地方上級レベルの工学の基礎は余裕を持って合格レベルに到達すること。国家総合職の基本～標準レベルの問題が理解できること

### <講義内容>

公務員試験に出題される数学・物理について，講義・演習をしていきます。更に，同じ範囲の国家総合職の標準的な問題まで視野に入れます（国家総合職はこの講義の範囲外からの出題もあります）。特に地方上級の問題を狙いの中心に置き，その出題傾向を念頭に置きながらも，国家系の問題も多く演習していきます。高校で物理が未習であっても大丈夫です。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	フローチャート，行列
4・5・6	コマ	行列，微分
7・8・9	コマ	積分，確率
10・11・12	コマ	確率分布，力のつり合い
13・14・15	コマ	確率，確率分布
16・17・18	コマ	確率分布，力のつり合い
19・20・21	コマ	運動方程式，保存則
22・23・24	コマ	等速円運動，振動
25・26・27	コマ	熱力学，波動1
28・29・30	コマ	波動2
31・32・33	コマ	電界，磁界1
34・35・36	コマ	磁界2，回路

## Syllabus

科目	土木
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	44コマ ※うち12コマ分は機械と共通
受講対象	土木職公務員試験受験生
必要な知識	特になし（一部工学の基礎の数学，力学の知識を使用）
受講生の到達目標	地方上級の土木職の出題に6割程度得点できるようにすること。 全科目について総合職の基本的な実力をつけること

<b>&lt;講義内容&gt;</b>		
地方上級の出題内容をふまえて，土木専門の全範囲について講義をしていきます。特に，試験時間を意識した特殊な解き方を紹介する場合があります。国家総合職の場合も，この講義が基本となります。		
<b>&lt;講義予定&gt;</b>		
1・2・3	コマ	構造力学1（機械合同）
4・5・6	コマ	構造力学2（機械合同）
7・8・9	コマ	構造力学3
10・11・12	コマ	構造力学4
13・14・15	コマ	土質力学1
16・17・18	コマ	土質力学2
19・20・21	コマ	土質力学3，水理学1(機械合同：21コマのみ)
22・23・24	コマ	水理学2（機械合同）
25・26・27	コマ	水理学3（機械合同：25，26コマ）
28・29・30	コマ	水理学3，測量学1
31・32・33	コマ	測量学2，コンクリート1
34・35・36	コマ	コンクリート2，都市計画1
37・38・39	コマ	都市計画2，河川工学1
40・41・42	コマ	海岸工学，衛生工学1
43・44	コマ	衛生工学2

## Syllabus

科目	建築
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	30コマ
受講対象	建築職公務員試験受験生
必要な知識	特になし
受講生の到達目標	最終段階にて国家一般職及び地方上級レベルの合格ラインに達すること。

### <講義内容>

国家一般職及び地方上級試験における建築系区分の各科目全般についての基本事項に関する講義を中心に、各種公務員試験の合格ラインに達する実力を涵養します。特に、分量的に多くなる知識分野の効率的な学習法や、然るべき対策によって得点アップが期待できる構造力学等の計算問題対策、独学では難しい部分も多い設計問題対策についても、適切に目配りを行って参ります。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	建築職公務員全般ガイダンス／建築史・都市計画史 I
4・5・6	コマ	建築史・都市計画史 II
7・8・9	コマ	都市計画 I
10・11・12	コマ	都市計画 II
13・14・15	コマ	都市計画 III、建築計画・建築法規 I
16・17・18	コマ	建築計画・建築法規 II
19・20・21	コマ	建築計画・建築法規 III、一般構造 I
22・23・24	コマ	一般構造 II、建築設備・環境工学 I
25・26・27	コマ	建築設備・環境工学 II、建築材料・建築施工 I
28・29・30	コマ	構造力学

## Syllabus

科目	機械
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	30コマ ※うち12コマ分は土木と共通
受講対象	機械職公務員試験受験生
必要な知識	工学の基礎の数学・物理
受講生の到達目標	国家一般職, 地方上級, 国家総合職の基礎レベル

### <講義内容>

土木系との共通講義は講義と演習, 機械職のみの講義では, 演習が中心となります。ここでは, 過去問を見ながら, 公務員試験の頻出, 重要分野の講義と過去問を使った演習をしていきます。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	材料力学1(土木と共通)
4・5・6	コマ	材料力学2 (土木と共通)
7・8・9	コマ	材料力学3
10・11・12	コマ	機械力学1
13・14・15	コマ	機械力学2
16・17・18	コマ	流体力学1(土木と共通)
19・20・21	コマ	流体力学2(土木と共通)
22・23・24	コマ	流体力学3
25・26・27	コマ	熱力学1
28・29・30	コマ	熱力学2

## Syllabus

科目	電気・電子
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	15コマ
受講対象	電気職公務員試験受験生
必要な知識	工学の基礎の数学・物理
受講生の到達目標	一般職の合格レベル, 総合職の標準問題が解けるレベル

### <講義内容>

電気系の科目を一般職の過去問を中心に見ていきます。ただし、一部科目は総合職についても見ていきます。問題演習を中心に多くの問題を扱っていきます。スー過去の問題, および近年の過去問を扱っていきます。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	電気回路
4・5・6	コマ	四端子回路, 電子回路1
7・8・9	コマ	電子回路2, 過渡応答回路
10・11・12	コマ	電磁気学, 電子工学1
13・14・15	コマ	電子工学2, 制御工学

## Syllabus

科目	化学（工学・化生薬）
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	30コマ
受講対象	化学職公務員試験受験生
必要な知識	高等学校理系クラス修了時レベルの化学の基礎知識があれば望ましい。
受講生の到達目標	最終段階にて国家一般職及び地方上級レベルの合格ラインに達すること。

### <講義内容>

国家一般職及び地方上級試験における化学系区分の各科目全般についての基本事項に関する講義を中心に、各種公務員試験の合格ラインに達する実力を涵養します。特に、分量的に多くなる知識分野の効率的な学習法や、然るべき対策によって得点アップが期待できる計算問題対策、一見とつきにくそうに見えますが実は得点源としやすい(そして、地方上級等においては出題数も多い)分野である化学工学等について、特に重点的に取り扱って参ります。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	全般ガイダンス／化学工学Ⅰ
4・5・6	コマ	化学工学Ⅱ
7・8・9	コマ	化学工学Ⅲ／物理化学Ⅰ
10・11・12	コマ	物理化学Ⅱ
13・14・15	コマ	物理化学Ⅲ／分析化学
16・17・18	コマ	無機化学Ⅰ
19・20・21	コマ	無機化学Ⅱ(無機工業化学含む)
22・23・24	コマ	無機化学Ⅱ(無機工業化学含む)・有機化学Ⅰ
25・26・27	コマ	有機化学Ⅱ(高分子化学・有機工業化学含む)
28・29・30	コマ	生物化学

## Syllabus

科目	数学・物理対象
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	36コマ ※うち21コマ「機械」と合同、15コマ「電気・電子」と合同
受講対象	物理学科の学生で機械か電気・電子を選択して受験するもの
必要な知識	工学の基礎レベルの数学, 物理
受講生の到達目標	国家公務員試験で機械系, 電気系を選択して工学職で合格できること

### <講義内容>

電気系から15コマ、及び機械系21コマと合同で行います。主に、物理系の学生で、機械、又は電気を選択して受講している人向けです。機械、電気の工学的予備知識は不要です。扱う科目は、機械力学（力学と同じ）、流体力学、熱力学、電磁気学、電気工学（回路）、電子工学です。特に、機械力学、熱力学、電磁気学、電子工学は総合職を狙う場合には重要視して下さい。

### <講義予定>

#### 【機械系】

1・2・3	コマ	機械力学1（機械10-12合同）
4・5・6	コマ	機械力学2（機械13-15合同）
7・8・9	コマ	流体力学1(土木と共通)
10・11・12	コマ	流体力学2(土木と共通)
13・14・15	コマ	流体力学3（機械22-24と合同）
16・17・18	コマ	熱力学1（機械25-27と合同）
19・20・21	コマ	熱力学2（機械28-30と合同）

#### 【電気電子系】

1・2・3	コマ	電気回路（電気1-3と合同）
4・5・6	コマ	四端子回路, 電子回路1（電気4-6と合同）
7・8・9	コマ	電子回路2, 過渡応答回路（電気7-9と合同）
10・11・12	コマ	電磁気学（電気10-12と合同）
13・14・15	コマ	電子工学, 制御工学（電気13, 14と合同）

## Syllabus

<b>科目</b>	数的処理国家総合職演習
<b>担当講師</b>	林 信廣
<b>回数(コマ数)</b>	8コマ
<b>必要な知識</b>	数的処理問題を解くために必要な基礎知識
<b>受講生の到達目標</b>	過去問を通じて、国家総合職の特徴的な出題形式に慣れていきます。

### <講義内容>

この講座では、これまでに学習した知識や技術をさらに発展させるための「裏技」的な解法の紹介と、実際に出題された過去問を使って問題演習を行い、総合職試験の出題傾向をつかむことを同時に行っていきます。

### <講義予定>

1・2	コマ	数的処理 裏技解法講座 第1回・第2回
3・4	コマ	数的処理 裏技解法講座 第3回・第4回
5・6	コマ	国家総合職 過去問演習講座 第1回
7・8	コマ	国家総合職 過去問演習講座 第2回

## Syllabus

科目	一般知識国家総合職演習
担当講師	根岸 博之
回数(コマ数)	12コマ
必要な知識	公務員講座一般知識受講レベルの基礎知識
受講生の到達目標	これまでの知識を活用して、問題を解く力を高める。出題傾向を過去問を用いて確認する。

### <講義内容>

これまでインプットしてきた知識を演習のかたちで確認していく。総合職の過去問の傾向を確認し、本番での実践的な力を養う。問題の取捨選択など、合格に向けての戦略を具体的に検討できるように準備を進めていく。基本は過去問のプリントを配布して実施するが、別途過去問集（『国家総合職過去問500』実務教育出版）を準備し、この講義の一助とするとともに数的処理や文章理解の演習用として活用することをおすすめしたい。本番につながるよう、社会科学・時事を中心に過去問を検証したい。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	過去問演習① 社会科学
4・5・6	コマ	過去問演習② 社会科学
7・8・9	コマ	過去問演習③ 人文・自然科学系時事問題
10・11・12	コマ	過去問演習④ 総合演習・直近の問題内容確認

## Syllabus

科目	工学の基礎応用
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	15コマ
必要な知識	工学の基礎の講義を受講している又は同等の数学・物理の実力がある
受講生の到達目標	国家総合職の標準的な問題（正答率35%以上）の問題に対応できる実力をつけること

### <講義内容>

国家総合職の過去問演習と講義（地方上級用の講義で扱わなかった分野について）を行います。コマ数が限られますので、ある程度問題は自習用となります。この講義では工学の基礎の講義で扱わなかった分野が中心となります。工学の基礎の講義を受講して、基礎的な実力をしっかりと養ってください。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	微積分, 線形代数
4・5・6	コマ	線形代数, 確率, 統計
7・8・9	コマ	フローチャート, 力学
10・11・12	コマ	力学, 波動
13・14・15	コマ	電磁気学

## Syllabus

科目	土木応用
担当講師	丸山 大介 / 近藤 秀臣
回数(コマ数)	16コマ
受講対象	土木系科目で総合職試験を目指す人
必要な知識	丸山講師：土木講義に出席していること，又は同等の知識 近藤講師：国家一般職・地方上級レベルの「土木」分野に係る基礎知識
受講生の到達目標	丸山講師：国家総合職の問題が解けるようにすること 近藤講師：最終段階にて国家総合職レベルの合格ラインに達すること。

### <講義内容>

丸山講師：土木系の国家総合職の過去問演習講義です。扱う科目は、構造力学・材料力学・建築構造力学、水理学・土質力学・流体力学、環境衛生工学、土木計画（都市計画以外）です。過去問を題材に近年の話題なども扱う予定です。

近藤講師：選択科目「建築史・都市計画」等を中心とした計画系科目につき、過去問演習等を主軸としつつ、建築史及び都市政策・住宅政策関連、都市計画史等にも配視した効率的な知識補充を行い、万全の態勢で総合職試験に臨んで頂けますような講座展開を目指して参ります。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	【丸山講師】構造力学系演習
4・5・6	コマ	【丸山講師】水理学系演習，環境・衛生工学1
7・8・9	コマ	【丸山講師】環境・衛生工学2，3，土木計画1
10	コマ	【丸山講師】土木計画2
11・12・13	コマ	【近藤講師】国家総合職過去問演習：計画系科目関連Ⅰ
14・15・16	コマ	【近藤講師】国家総合職過去問演習：計画系科目関連Ⅱ

## Syllabus

科目	建築応用
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	12コマ
受講対象	建築系科目で総合職試験を目指す人
必要な知識	国家一般職・地方上級レベルの「建築(学)」に係る基礎知識
受講生の到達目標	最終段階にて国家総合職レベルの合格ラインに達すること。

### <講義内容>

国家総合職試験における建築系区分の主要選択科目につき、過去問演習及びその解説等を通して、実践力の涵養を目指します。概ね前半は選択科目中で短期間の実力向上が可能な建築史・都市計画・建築法規・建築計画等を中心とし、後半は環境工学・建築設備・材料及び施工・構造力学等を中心に実践力の向上を図ります。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	国家総合職過去問演習Ⅰ
4・5・6	コマ	国家総合職過去問演習Ⅱ
7・8・9	コマ	国家総合職過去問演習Ⅲ
10・11・12	コマ	国家総合職過去問演習Ⅳ

## Syllabus

科目	機械応用
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	4コマ
受講対象	機械系科目で総合職試験を目指す人
必要な知識	機械の講義を受講していること
受講生の到達目標	国家総合職合格レベル

### <講義内容>

国家総合職の演習をしていきます。4力学の中から近年の国家総合職の問題の演習を行う予定です。主に機械系の講義で扱わなかった特殊な分野が中心となります（なお、場合によっては、制御なども扱います）

### <講義予定>

1・2	コマ	機械系総合演習
3・4	コマ	機械系総合演習

## Syllabus

科目	電気・電子応用
担当講師	丸山 大介
回数(コマ数)	10コマ
受講対象	電気系科目で総合職試験を目指す人
必要な知識	国家一般職レベルの実力
受講生の到達目標	国家総合職の択一合格レベル

### <講義内容>

電気系の科目を中心に、主に総合職1次の対策をしていきます（科目割は昨年度の実績です）。過去問の演習が中心となります。ここまでの講義で扱わなかったことも、総合職の出題傾向を中心に扱っていきます。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	電子工学・制御
4・5・6	コマ	制御・電気工学
7・8・9	コマ	電気工学, 電磁気学1
10	コマ	電磁気学2

## Syllabus

科目	化学応用（工学・化生薬）
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	18コマ
受講対象	化学系科目（化学工学/化生薬）で総合職試験を目指す人
必要な知識	国家一般職・地方上級専門試験レベルの「化学」及び教養試験レベルの「生物」等の基礎知識
受講生の到達目標	最終段階にて国家総合職レベルの合格ラインに達すること。

### <講義内容>

国家一般職・地方上級レベルの一般的な「化学」分野の学習を踏まえ、国家総合職「工学」(及び「化学・生物・薬学」)区分及び旧国家Ⅰ種「理工Ⅰ」(及び「理工Ⅳ」)区分の化学系科目を中心に、過去問演習等を軸に最終合格可能な実力の涵養を目指します。なお、選択科目は多岐にわたるため、受講生の皆さんの選択予定科目を中心に適宜講義内容をアレンジしてゆく予定です。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	国家総合職「化学系」総括過去問演習・解説Ⅰ
4・5・6	コマ	国家総合職「化学系」総括過去問演習・解説Ⅱ
7・8・9	コマ	国家総合職「化学系」総括過去問演習・解説Ⅲ
10・11・12	コマ	化学系過去問演習・解説
13・14・15	コマ	薬学系・生物系過去問演習・解説Ⅰ
16・17・18	コマ	薬学系・生物系過去問演習・解説Ⅱ

## Syllabus

科目	工学区分1upゼミ
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	14コマ
受講対象	総合職試験(工学区分)を目指す人
必要な知識	国家一般職・地方上級及び国家総合職対策講座終了時レベルの知識
受講生の到達目標	国家総合職試験における実践的得点力のさらなる向上を図り、最終合格の可能性をより高めること。

### <講義内容>

国家総合職試験「工学」区分には、いわば“汎用科目”ともいうべき、短期間の学習で得点源としやすい、いくつかの選択科目が存在します。例えば、①「技術論」、②「工学基礎実験」「情報基礎」の各科目全般、さらには③「計測工学・制御工学」及び「航空力学(「機械力学」の1問として出題されます)」や「熱力学・熱機関」「電子工学」「環境工学(土木系)」といった科目の一部の問題がそれにあたると云ってよいと考えられます。本講義では、主として上記①を中心として、事項解説及び過去問演習及びその解説等を通じ、国家総合職試験におけるさらなる実践的得点力の向上を目指します。なお「技術論」とは、国家総合職試験のみに設けられる選択科目であり、その内容は；技術の歴史、技術と社会との関係(安全性・利便性の向上や、その一方で発生する環境問題や大規模事故等)、科学・技術政策の動向、技術者倫理などとなっています。JABEE認定の正課講義等で学習されている「技術者倫理」等との関連も深く、また国家一般職・地方上級等でも課される「技術系小論文」の対策も兼ねることができ、非常にお勧めの科目です。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	全般ガイダンス／技術論Ⅰ：技術史Ⅰ
4・5・6	コマ	技術論Ⅱ：技術史Ⅱ
7・8・9	コマ	技術論Ⅲ：技術史Ⅲ／科学技術政策・科学技術動向等
10・11・12	コマ	技術論Ⅳ：技術者倫理Ⅰ(科学技術倫理全般及び技術者倫理等)
13・14	コマ	技術論Ⅴ：技術者倫理Ⅱ(科学技術倫理全般及び技術者倫理等)

## Syllabus

科目	化生薬区分 1 u pゼミ
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	8コマ
受講対象	総合職試験（化学・生物・薬学区分）を目指す人
必要な知識	国家一般職・地方上級及び国家総合職対策講座終了時レベルの知識
受講生の到達目標	国家総合職試験における実践的得点力のさらなる向上を図り，最終合格の可能性をより高めること。

### <講義内容>

国家総合職試験「化学・生物・薬学」区分には，いわば“汎用科目”ともいうべき，短期間の学習で得点源としやすい，いくつかの選択科目が存在します。例えば，①「食品学」や「応用微生物学・生物工学」及び「土壌肥科学・環境科学・農薬」，さらには②「化学工学」「衛生化学」及び「生態学・系統分類学」といった科目(の一部の問題)がそれにあたりと云ってよいと考えられます。本講義では，主として上記の①の各科目、特に食品学を中心に，適宜，事項解説及び過去問演習及びその解説等を通じ，国家総合職試験におけるさらなる実践的得点力の向上を目指します(なお，実際に講義にて取り扱う科目につきましては，試験区分の特性上，受講生の皆さんと適宜調整を行って参ります)。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	全般ガイダンス／食品学及び応用微生物学 等 I
4・5・6	コマ	食品学及び応用微生物学 等 II
7・8	コマ	食品学及び応用微生物学 等 III、（必要に応じて）土壌肥科学・環境科学・農薬等

## Syllabus

科目	政策立案講義
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	12コマ
必要な知識	特になし(中学校「公民」及び高等学校「現代社会」「政治・経済」もしくは「倫理」のうち1科目以上の基礎知識があればより望ましい)
受講生の到達目標	最終段階において、各種公務員試験における「小論文」及び「面接」「集団討論」、特に国家総合職試験「政策論文」及び「政策課題討議」、さらには「官庁訪問」等において高評価を獲得しうるような政策的思考力の基礎を涵養する。

### <講義内容>

「政策」—「よくコトバは耳にするけど、何かつかみどころがないよね…」 「何だかよくわからないうちにどこかで決められて、押し付けられてる感じってあるよね…」 etc. 「政策」という存在は、どこか、日常生活からかけ離れた、それでいてしっかりと取り囲まれている何だか奇妙なモノ…という印象を持たれがちです。しかし例えば、食品や水、建築物などの「安全性」をいちいち確認せずとも、多くの場合“安全”にそれらが使えるのも、教育機関や道路が利用できるのも、実のところすべて「政策」の産物なのです。

本講義では、将来何らかの形で「政策」の直接の担い手となる「公務員」を目指す皆さんに、その「政策」に関する基礎的な見方・考え方、分析手法や立案手法等をご紹介します。公務員試験においていわば「政策的思考力」ひいては「政策立案力」を問われるような、上記の「到達目標」に書かせて頂いた各種の試験(その典型が国家総合職「政策論文」試験です)を突破し、かつ特にそのレベルが高度なものとなる国家総合職「官庁訪問」等においても高評価を獲得して頂くための基礎力の涵養を目指す講義展開を予定しています。

### <講義予定>

1・2・3	コマ	「行政」とは何か：その存在理由、その構造と機能、行政内部及び民間部門等の他セクタとの役割分担や相互関係について 等
4・5・6	コマ	「政策」とは何かⅠ(総論篇)：その存在理由、その「担い手」と「手段」の諸相、いわゆる「政策プロセス」の在り方について 等
7・8・9	コマ	「政策」とは何かⅡ(各論篇)：近年の我が国における代表的な「政策」に係るケーススタディとその分析及び“次善の策”の検討 等
10・11	コマ	「政策論文」対策Ⅰ：その傾向と対策、重要過去問研究(添付資料の読解を含む)、試験委員研究、「予想問題」配布 等(「政策課題討議」の研究も含む)
12	コマ	「政策論文」対策Ⅱ：「予想問題」フォローアップ、その他の重要出題予想テーマの検討 等